

目からうろこ

シリーズ～続 福音の力～

2021/7/11



これまでのいきさつ

- ステファノの殉教
 - 「証人たちは、自分の着ている物をサウロという若者の足もとに置いた。」7:58
- エルサレムの教会に対する迫害
 - 「その日、エルサレムの教会に対して大迫害が起こり、使徒たちのほかは皆、ユダヤとサマリアの地方に散って行った。…一方、サウロは家から家へと押し入って教会を荒らし、男女を問わず引き出して牢に送っていた。」8:1-3
- フィリポによるサマリア伝道 + α (8章)
 - エチオピア人の宦官の救い

使徒言行録9章1～22節

さて、サウロはなおも主の弟子たちを脅迫し、殺そうと意気込んで、大祭司のところへ行き、ダマスコの諸会堂あての手紙を求めた。それは、この道に従う者を見つけ出したら、男女を問わず縛り上げ、エルサレムに連行するためであった。ところが、サウロが旅をしてダマスコに近づいたとき、突然、天からの光が彼の周りを照らした。サウロは地に倒れ、「サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか」と呼びかける声を聞いた。「主よ、あなたはどなたですか」と言うと、答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。起きて町に入れ。そうすれば、あなたのなすべきことが知らされる。」同行していた人たちは、声は聞こえても、だれの姿も見えないので、ものも言えず立っていた。

サウロは地面から起き上がって、目を開けたが、何も見えなかった。人々は彼の手を引いてダマスコに連れて行った。サウロは三日間、目が見えず、食べも飲みもしなかった。

ところで、ダマスコにアナニアという弟子がいた。幻の中で主が、「アナニア」と呼びかけると、アナニアは、「主よ、ここにおります」と言った。すると、主は言われた。「立って、『直線通り』と呼ばれる通りへ行き、ユダの家にいるサウロという名の、タルソス出身の者を訪ねよ。今、彼は祈っている。アナニアという人が入って来て自分の上に手を置き、元どおり目が見えるようにしてくれるのを、幻で見たのだ。」しかし、アナニアは答えた。「主よ、わたしは、その人がエルサレムで、あなたの聖なる者たちに対してどんな悪事を働いたか、大勢の人から聞きました。ここでも、御名を呼び求める人をすべて捕らえるため、祭司長たちから権限を受けています。」

すると、主は言われた。「行け。あの者は、異邦人や王たち、またイスラエルの子らにわたしの名を伝えるために、わたしが選んだ器である。わたしの名のためにどんなに苦しまなくてはならないかを、わたしは彼に示そう。」そこで、アナニアは出かけて行ってユダの家に入り、サウロの上に手を置いて言った。「兄弟サウル、あなたがここへ来る途中に現れてくださった主イエスは、あなたが元どおり目が見えるようになり、また、聖霊で満たされるようにと、わたしをお遣わしになったのです。」すると、たちまち目からうろこのようなものが落ち、サウロは元どおり見えるようになった。そこで、身を起こして洗礼を受け、食事をして元気を取り戻した。

サウロは数日の間、ダマスコの弟子たちと一緒にいて、すぐあちこちの会堂で、「この人こそ神の子である」と、イエスのことを宣べ伝えた。これを聞いた人々は皆、非常に驚い言った。「あれは、エルサレムでこの名を呼び求める者たちを滅ぼしていた男ではないか。また、ここへやって来たのも、彼らを縛り上げ、祭司長たちのところへ連行するためではなかったか。」

衝撃の出来事

- 信徒たちを捕らえるためダマスコに赴いた
 - 大祭司からお墨付きをもらって出かけた
 - 「この道に従う者を見つけ出したら、男女を問わず縛り上げ、エルサレムに連行するため」

ダマスコ

キリスト時代のパレスチナ

Copyright by C. S. HAMMOND & CO., N. Y.



一年中流れる川
季節によって流れる川
道路、通商路

- ルサニヤの四分領
- ピリポの四分領
- ヘロデ・アンティパスの四分領
- ローマ行政長官の支配領
- デカポリスの町
- サラメに与えられた領地
- デカポリス
- 独立領域
- ローマのシリヤ州

*デカポリスとアスカロンは、シリヤ州を治めるローマの支配者の下に独立を保った。

ローマ行政長官の居館

大海 (地中海)

ファラオはヘロデの死によって、ユダヤ、サマリヤ、イデマヤの支配者になった。彼の遺言は、王位を継承され、遠征されたA.D. 6まで続いた。彼の領土は、その後ローマ行政長官の下に置かれた。

ヘロデの妹ファロメは、アゾト、ヤムニヤ、ファマエリスを与えられた。これらは次に、アウグストゥスの寵妃プリアヤ皇帝ペリオの手に渡った。

222 km

エルサレム



衝撃の出来事

- 信徒たちを捕らえるため**ダマスコ**に赴いた
 - 大祭司からお墨付きをもらって出かけた
 - 「この道に従う者を見つけ出したら、男女を問わず縛り上げ、エルサレムに連行するため」
- 突然の光と声
 - 「**サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか**」
 - 「主よ、あなたはどなたですか」
 - 「わたしは、**あなたが迫害しているイエスである。**」
- 視力を失ったパウロ
 - 「サウロは地面から起き上がって、目を開けたが、何も見えなかった。…サウロは三日間、目が見えず、食べも飲みもしなかった。」



遣わされたアナニア

- 主はダマスコ在住のアナニアに、サウロのもとに行き祈るよう命じられた
 - 自分たちを捕まえるために来た男
- 主はサウロが**特別な器**であると告げた
 - 「行け。あの者は、異邦人や王たち、またイスラエルの子らにわたしの名を伝えるために、わたしが選んだ器である。」
- アナニアが手を置いて祈ると癒された
 - 「そこで、アナニアは出かけて行ってユダの家に入り、サウロの上に手を置いて言った。…すると、たちまち**目からうろこ**のようなものが落ち、サウロは元どおり見えるようになった。」

180度変えられたサウロ

- 即座に洗礼を受けたサウロ
 - 3日間の間には心は決まっていたのでは？
- 宣教者となったサウロ
 - 「すぐあちこちの会堂で、『この人こそ神の子である』と、イエスのことを宣べ伝えた。」
- 驚いた人々
 - 「ここへやって来たのも、彼らを縛り上げ、祭司長たちのところへ連行するためではなかったか。」
 - 「しかし、サウロはますます力を得て、イエスがメシアであることを論証し、ダマスコに住んでいるユダヤ人をうろたえさせた。」

サウロに何が起こったか？

- ファリサイ派のエリート
- ナザレのイエスの死
- ステファノの殉教を目撃
 - サウロの心に何かが生まれた？
- 教会に対する異常なまでの**嫌悪感**
 - 「熱心さの点では教会の迫害者、律法の義については非のうちどころのない者でした。」フィリピ³:6
- ダマスコにまで赴き、クリスチャンを迫害する
 - サウロの教会迫害の熱意は、教会に対する**恐怖心**の裏返しではなかったか？

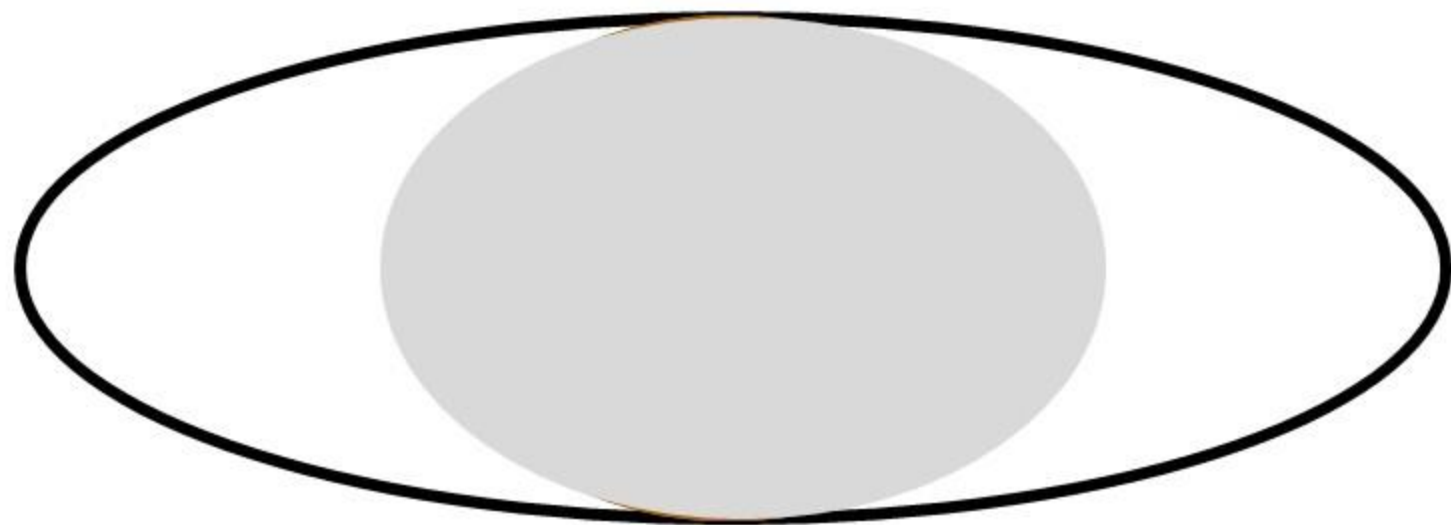
サウロに何が起こったか？

- 突然の天からの光
- イエス様の声
 - 「わたしは、あなたが迫害しているイエスである」
 - イエス様は存在している
 - イエス様は自分のやっていることを知っている
 - 自分はイエス様を迫害している
- 目が見えなくなる
 - 自分はイエス様の前に無力である
 - イエス様を迫害してきたことの愚かさを実感する
 - 悔い改めの祈り > もし視力を戻していただけるのなら、命がけでイエス様を伝えます！

「目からうろこ」が落ちる

「(新約聖書の使徒言行録9章から)あることを
きっかけとして、急にものごとの真相や本質が
分かるようになる。」(広辞苑)

心の目を覆っているの「うろこのようなもの」



「主よ、目が見えるようになりたいのです」ルカ18:41